

家中見渡せるキッチン

多目的ウッドデッキで明るく

続谷村に住む慶田盛岡さん一家は、家事をしながら子どもの様子分かるよう、購入した6LDKの中古住宅を4LDKにリフォーム。キッチンを中心に、室内やウッドデッキに目が届く住まいを実現させた。



リフォーム後

シンクの向きを変えたことで、室内を見渡せるようになったキッチン。明るさの確保はもとより、正面のウッドデッキで子どもの遊ぶ様子や家事をしながらでも来客が分かるようになった。



リフォーム前

リビングに背を向けた状態のキッチン。通気窓はあるものの、薄暗さは否めず。



寝室。以前は、隣の子居室と引き戸で仕切られていたが、個室として使うため戸はそのままだに、収納棚を造り付けた。

ウッドデッキ。干し場や子どもの遊び場など第2のリビングとしても活用している。



DATA

家族構成：夫婦、子ども2人
 施工面積：約72㎡
 構造：鉄筋コンクリート造平屋建て
 築年数：38年
 設計・施工：(株)ラムハウジング
 担当：川上 優
 (電話)098・936・8808

増築も対応可能に

まず、2間続きの和室と廊下を撤去し、ウッドデッキに。それにより、南からの光や風をふんだんに取り込み、明るく風通しのいい室内になった。近い将来、部

キッチンには、壁側からウッドデッキに向けて配置を変更。料理をしながら、リビングや和室、ウッドデッキで遊ぶ子どもたちにも行き届く造りにしている。また、浴室や洗面室にも近いので、短い動線で洗濯

慶田盛岡さん一家は、夫婦に子ども2人の4人家族。プランでは、慶田盛岡さんの要望を踏まえ、家族がくつろぐスペースや、寝室と個室1部屋と必要な部屋数を確保した上で、キッチンを中心に家中が見渡せる点が重視された。

厨の増築スペースにも充てられる。玄関に近い建物の北側に、和室とリビング、西側にキッチンと浴室・洗面室を。そして南側に、予備室と寝室をそれぞれレイアウトした。

天井もすっきり

天井をすっきり見せる工夫もポイントのひとつ。梁の出っ張りをできるだけ目立たせないよう天井懐を設けて、天井の低さを感じさせないよう工夫している。

妻の雅恵さんは「室内が見渡せる個所にキッチンがあることで、家事をしながらでも子どもたちの様子が分かり安心。特にウッドデッキは、子どもが走り回るのにちょうどいい。ほかにも食事をしたりと、楽しみが広がっています」と満足げ。住んで2年が経った慶田盛岡さん一家。家族の様子が感じられる住まいに変わったことで、一家団らんの間も自然と増えたという。

